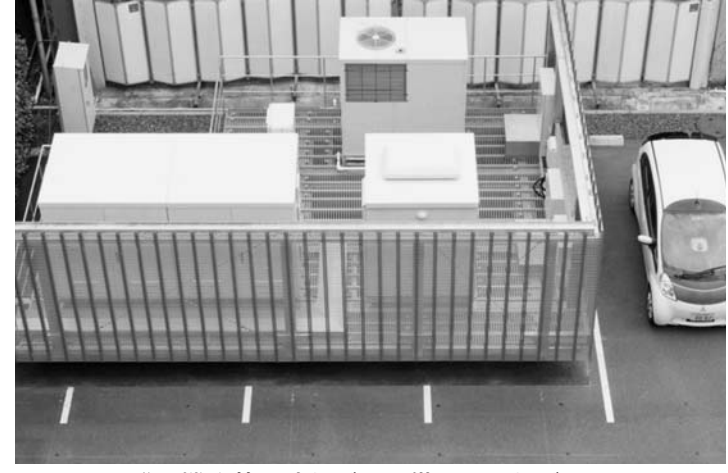


建設産業

エネルギー事業強化進む

ゼネコン各社、発電や省エネ展開



発電機や蓄電池などの設備。EVなども組み合わせて最適制御する。(竹中工務店)

大林組は新領域分野の主要事業として、再生可能エネルギーに力を入れている。太陽光発電への投資は一段落ついたことから、風力発電を強化する。再生可能への設備投資は2017年度から5年間で年平均200億円を計画するが、7割超を風力発電に充てる方針だ。



長崎県五島市・福江島沖で稼働中の浮体式洋上風力発電(戸田建設)

戸田建設は新領域分野の主要事業として、再生可能エネルギーに力を入れている。太陽光発電への投資は一段落ついたことから、風力発電を強化する。再生可能への設備投資は2017年度から5年間で年平均200億円を計画するが、7割超を風力発電に充てる方針だ。

先行している太陽光発電では、5月に日向日知屋太陽光発電所(宮崎県日向市)が稼働した。同社で最大規模の定出力2万4千530キロワットを誇る。現時点で太陽光発電の新設は計画していない。

一方、風力発電では今秋に秋田県三種町で三種浜田風力発電所が稼働する予定。同社初の風力発電所となる。定出力は6000キロワット。投資額は約25億円。また秋田県の秋田港と能代港で計画されている洋上風力発電事業に参画する。秋田県沖での洋上風力発電の事業化も検討中だ。

大成建設は建物のエネルギー消費量を削減する「ZEB Ready」を達成した。テナントオフィスのCO2削減率を削減する「ZEB Ready」を達成した。テナントオフィスのCO2削減率を削減する「ZEB Ready」を達成した。

竹中工務店は先端技術の活用と最適なエネルギーマネジメントで、街全体のCO2削減率を削減する「ZEB Ready」を達成した。テナントオフィスのCO2削減率を削減する「ZEB Ready」を達成した。

再生可能エネルギーに力を入れている。太陽光発電への投資は一段落ついたことから、風力発電を強化する。再生可能への設備投資は2017年度から5年間で年平均200億円を計画するが、7割超を風力発電に充てる方針だ。



今秋に稼働予定の「三種浜田風力発電所」(イメージ、大林組)

再生可能エネルギーに力を入れている。太陽光発電への投資は一段落ついたことから、風力発電を強化する。再生可能への設備投資は2017年度から5年間で年平均200億円を計画するが、7割超を風力発電に充てる方針だ。

再生可能エネルギーに力を入れている。太陽光発電への投資は一段落ついたことから、風力発電を強化する。再生可能への設備投資は2017年度から5年間で年平均200億円を計画するが、7割超を風力発電に充てる方針だ。

再生可能エネに力

風力、バイオマスなど稼働

ゼネコン各社は持続可能な社会の実現に向け、エネルギー分野の事業を強化している。建物のエネルギー利用を管理するエネルギーマネジメントシステム(EMS)や、省エネ性能の高い建物を実現する「ネット・ゼロ・エネルギービル(ZEB)」などへの取り組みを推進する。一方、再生可能エネルギーでは、事業領域の拡大の一環として、発電事業者として展開する動きもみられる。各社のエネルギー分野の取り組みをみてみる。



霧島酒造のメタン発酵設備とガスタンク(鹿島)

再生可能エネルギーに力を入れている。太陽光発電への投資は一段落ついたことから、風力発電を強化する。再生可能への設備投資は2017年度から5年間で年平均200億円を計画するが、7割超を風力発電に充てる方針だ。

世界中に、私が必要とされる場所がある。

子どもたちに誇れるしごとを。

目を輝かせて何かに没頭していたあの頃から、私たちのものづくりへの気持ちは変わりません。ずっと思い描いてきた夢や情熱を、建造物に込めて未来へ伝えていきます。

SHIMIZU CORPORATION
清水建設

地図に残る仕事。

大成建設

For a Lively World